近森病院　言語療法科

科長　井上浩明

概要

近森病院言語療法科は、2022 年当初 8 名体制で運用を開始した。2・6 月に 1 名ずつ産前産後休業から復帰、9 月に 2 名産前産後休業に入り、11 月に退職に伴い 1 名不在となり、12 月に 1 名近森リハビリテーション病院に異動となったため、現場 6 名体制で運用となっている。

臨床面では、人員が不安定であったため、前年同様の管理体制にて質の維持に努めた。

業務面では、カルテ記載の方法を見直し、9 割のスタッフが前年よりも業務時間の短縮が可能となった。

教育面では、前年に引き続き、組織的に専門資格取得に取り組み、必須講座の受講などを促した。

学生指導では、見学実習生 1 名、長期実習生 3 名の指導を行った。

業務実績

入院・外来患者処方数は、1146 件（前年 1319 件）であった。月別処方数を図 1、月別実施単位数を図 2 に示す。2 月は新型コロナウィルスのクラスター対応にてリハビリ実施を制限した。9 月まではサービス提供はある程度安定して確保できていたが、以降は産前産後休業スタッフや退職スタッフの影響などで実施数は減少となった。

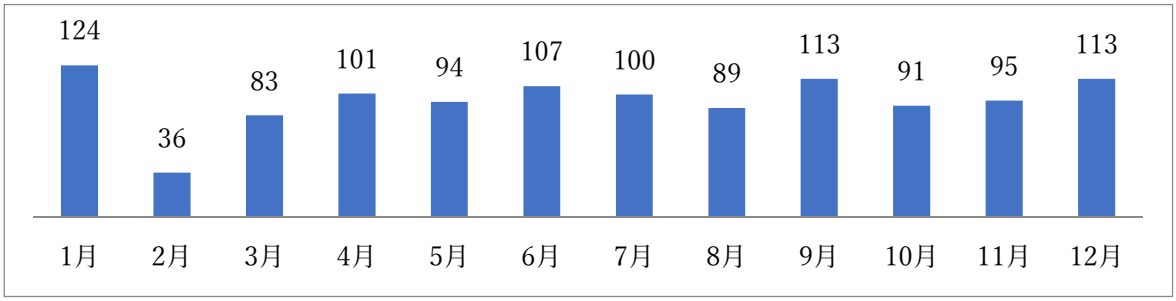
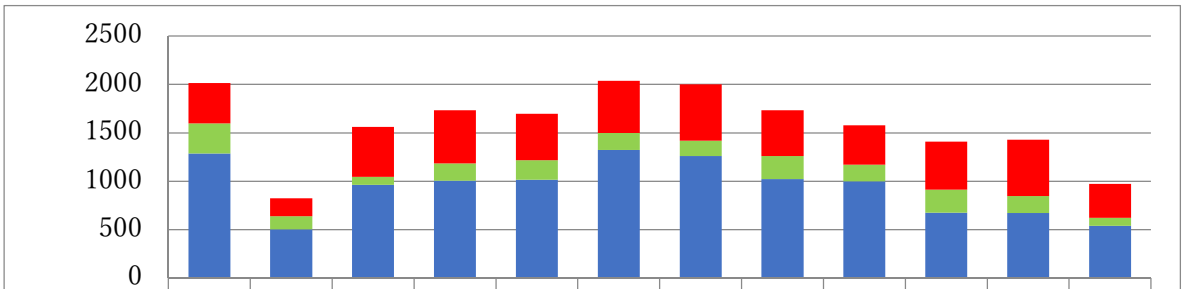


図 1.　月別処方数



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
呼吸器	415	186	516	549	480	540	583	471	408	495	584	351
廃用	311	136	84	176	202	174	158	241	171	240	173	83
脳血管	1288	503	962	1007	1016	1324	1260	1021	999	674	673	539

図 2.　月別実施単位数

終わりに

2023 年は、人員減での運営が予測されるため、適宜医師や他職種と協議・協業を行い、患者の不利益となることがないよう可能な限りのサービス提供ができる体制を目指していく。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
当院における手動経管栄養投与時間の調査報告　―リハビリテーション部の業務改善にむけて―	井上浩明 前田秀博	第 23 回日本言語聴覚学会	6 月 24・25 日 新潟

論文

演題	発表者 共同研究者	雑誌名
近森病院における手動経管栄養投与時間の調査報告　―リハビリテーション部の業務改善にむけて―	井上浩明 前田秀博	近森会グループ雑誌 vol.04 2022 年 7 月 15 日発行